

1 単元構想

本単元で身に付けたい力

相手に伝わるように、話す事柄の順序に気を付けて説明する。

言語活動とその特徴

教材の特質

本単元では、生活科で探検したまちのおすすめの場所がどこにあるのかを友だちに教えるために、話す順序に気を付けて説明する活動を設定している。友だちが迷うことなく道案内をするという課題設定を持たせることで、聞き手にとって分かりやすい説明とはどういうものなのか修正しながら取り組むことができると考える。

本教材は、絵の描き方を言葉だけで説明するためには、何を、どのような順序で話すと分かりやすいだろう、という投げかけから始まる。そして、「みどりさんのみちあんない」を通して、聞き手にとって分かりやすい説明の仕方について考え、その工夫を捉えるのに適した教材である。また、説明を聞いて絵を描く活動は、遊びの要素を含み、児童が楽しく取り組むことができると予想される。

児童の実態

指導観

児童はこれまでに、時系列に沿って出来事を順番に話すことを学習している。1年生「すきなきょうかはなあに」の学習では、順序よく話す学習を行った。しかし、4月に行われた標準学力検査の「話すこと・聞くこと」の項目では、目標値や全国平均を10ポイントほど下回っていた。特に「話し手の話に関心を持ち、質問を返す」ことに弱さが見られた。どんな情報を入れて話せば相手に伝わるか考え、表現する力をつけていかなければならない。

1年生の同系列の単元「すきなきょうかはなあに」の学習では、まず、何から話すのかを決め、一つずつ話すことや、「一つ目は～です。二つ目は～です。」のようなまとまりを表す言葉を使う力を付けてきた。本単元では、聞き手のことを想像して、必要な情報を落とさずに順序よく話すことを意識させていく。友だちが迷うことなくたどり着けるように、「まがるところ」や「ほうこう」、「目じるしになるもの」など言葉を選んだり、通る道順に沿って説明するなど順序を工夫したりしながら、聞き手にとってわかりやすい説明ができる力をつけていく。そのために、ペアで役割を交代しながら振り返ることを通して、より分かりやすい説明になるよう修正しながら思考を深めさせていきたい。本系統ではさらに、3年生では「外国のことをしょうかいしよう」で、話の組み立てや話し方を工夫する学習につながっていく。

2 単元の目標及び単元の評価規準

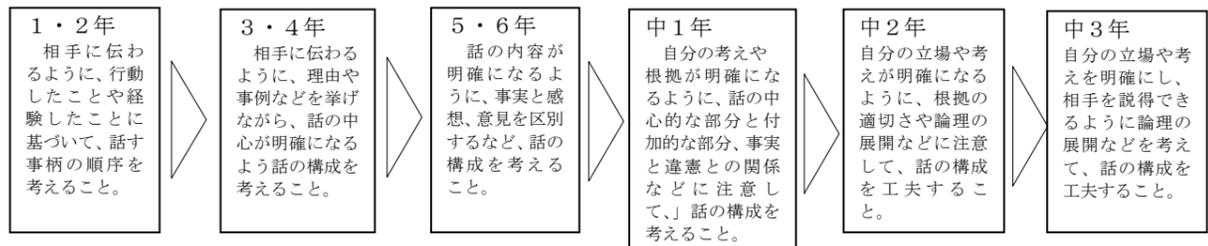
(1) 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(2)ア	相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えることができる。A(1)イ	進んで、相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、学習課題に沿って説明しようとしている。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えている。A(1)イ	進んで、相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、学習の見通しをもって説明しようとしている。

3 資質・能力の系統性

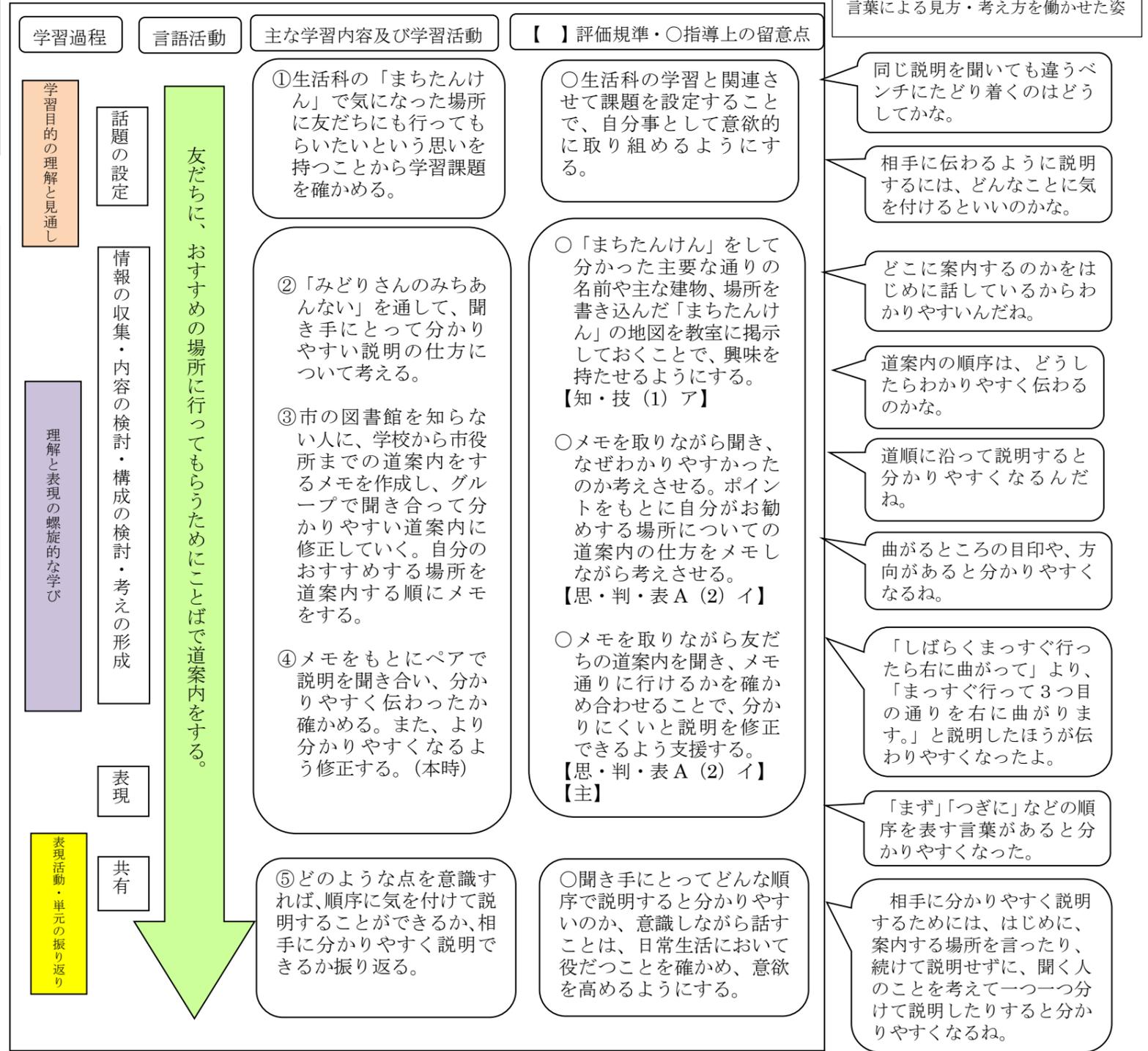


4 研究主題に迫る手立て

研究主題:主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりー各教科等の見方・考え方を働かせてー

- 「友だちにおすすめの場所に行ってもらうために、おすすめの場所までの道案内をする」という明確な目的意識や相手意識を持たせることで、道順に沿って分かりやすく伝えることの必要性を感じながら学習を進めることができるようにする。
- 単元を通して、「分かりやすさ」「伝わりやすさ」に着目して、説明の順序や道順、曲がる場所、目印など相手を意識した説明になっているのかを考えさせ、必要な情報を落とさずに順序よく話すことができるようにする。

5 学習の流れ



本単元終了時の目指す児童の姿

○聞き手が様子を思い浮かべやすいような言葉を選んで使ったり、順序を表す言葉を使ったりして自分の考えを分かりやすく説明する姿。

(1) 目標

話し手と聞き手の役割を交代して道案内することで、話す順序や言葉の使い方を修正しながら分かりやすく説明することができる。

(2) 板書計画

<p>ふりかえり せつめいのしかたがどのようによくなったのか。 友だちのせつめいのしかたのわかりやすかったところ。</p>	<p>・ せつめいのじゅんじょ 「まず」「はじめに」「つぎに」「それから」 ・ まがるところ 次の角を右に、左に ・ 目じるし 色、たてもの 角 しんごう</p>	<p>町探検地図</p> <p>なぜつたわりにくい？ つたわりにくかったのは？ ・ どこでまがればいいかわからない。 ・ 目じるしがわからない。 ・ 何色のたてものなのかな。 ・ 早口 ・ 声が小さい</p>	<p>めあて みちあんないポイントをつかって、友だちをおすすめする場しよにあんないしよう。</p>	<p>ことばでみちあんないしよう みちあんないポイント ○みちじゅんのとおりに話す。 ○まがるところはどこか。 ○目じるしは何か。 ○じゅんじょをあらわすことばをつかう。 ○ゆっくりはつきり話す。</p>
---	---	--	---	---

(3) 展開 学習内容及び学習活動(番号) 主な発問(○) 予想される児童の反応(・) 指導上の留意点(●) 評価規準及び評価方法(☆)

導入	展開	まとめ
<p>1. 今までの学習を想起する。</p> <p>●前時の振り返りを読みかえし、本時の学習への意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手に分かりやすい説明の仕方は、もうぱっちりできる。 わたしのおすすめしたい公園への道順を早く伝えたいな。 ちゃんと伝えたら○○さんは、おすすめの場所に行ってくれるかな。 <p>みちあんないポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> はじめに、場所を言う。 道順の通りに言う。 どこで曲がるかを言う。 目じるしを言う。 順序を表す言葉を使う。 ゆっくり、はつきり話す。 <p>めあて みちあんないポイントをつかって、友だちをおすすめする場しよにあんないしよう。</p>	<p>2. 自分が道案内したい場所について、地図を見ながら道案内のメモの説明でいいか確かめる。(個人)</p> <p>○地図を見て、道案内のメモの通りにおすすめの場所にたどり着けるか確かめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> どの角で曲がるかわからない。いくつ目かを付け加えよう。 道順通りに説明しよう。メモは簡単に。 <p>●説明原稿ではなく、メモを作成することで、大事な事柄を意識させる。</p> <p>●道案内ポイントを意識させて、足りないところを補うようにする。</p> <p>3. グループで説明し合い、気づいたことを伝え合う。(グループ)</p> <p>○メモをもとにおすすめの場所の道案内をしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3つ目の角って？目じるしがあると分かりやすいのになあ。 一条通りか。分かる、分かる。 <p>●話す人は、地図とメモを見て道案内させ、聞く人は、地図を見ずにメモを取りながら聞かせるようにする。説明が終わってから、メモと地図を見て案内されたとおりに行けるか確かめさせるようにする。話の途中で質問しない。</p> <p>☆メモをもとに分かりやすく道案内をするために、話す順序を考えて話している。</p> <p style="text-align: right;">【思・判・表A(2)イ】(ノート・発言)</p> <p>4. グループの人のアドバイスをもとにメモを修正し、再度、道案内をし合う。(個人・グループ)</p> <p>○分かりにくかったのはどうしてかな。分かりやすかったのはどうしてかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲がる場所はわかったけど、目じるしが分かると安心して曲がれる。 「まず」「つぎに」を使って説明していたから、順序が分かった。 メモを取りやすく、ゆっくりはつきりと話してくれた。 <p>☆進んで、相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、説明しようとしている。【主】(発言・振り返り)</p>	<p>5. 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 二つ目の角を「右」に曲がるを付け加えたから分かりやすくなった。 曲がる角の目印に「マルナカ」を入れたからわかりやすくなった。 「次の角」じゃなく、「次の信号を左に」と説明してくれたから分かりやすかった。 順序を表す言葉を言うとうわかりやすい。 一つ一つゆっくりと話してくれたから、メモが取りやすかった。 <p>●アドバイスをもらって、説明の仕方がどのようによくなったのか。また、友だちの説明の仕方の分かりやすかったところはどんなところか振り返らせる。</p>

○本時で働かせたい言葉による見方・考え方

言葉だけで道案内するために相手を意識し、必要な情報を落とさずに順序よく話したり、目じるしとなるものの様子(形、大きさ、色など)が伝わるように表現を選択して話したりしようとする。

○主体的・対話的な学びを生み出すため工夫

自分の気になっている場所を友だちに伝えたいという気持ちを持って説明することで、どこがどう伝わらないのか気付くとともに、分かりやすい説明の仕方をお互いにアドバイスしながら修正できるようにする。

言語活動モデル

まちあわせのばしよは、
 ふんすいの近くのベンチ
 です。
 ぜんぶで二回まがりま
 す。まず、入り口から
 まっすぐにすすみます。
 一つ目のトイレをすぎた
 ら、すぐ右にまがります。
十字ろを右にまがる
と、すぐにふん水が見え
ます。そのそばのベンチ
でまっています。